

第1回「秋田県家計消費動向調査」結果

(平成23年9月調査)

【調査の要旨】

- **消費指数**は、▲103.6 とマイナス超となっている。内訳をみると景気判断指数が▲55.9、暮らし向き判断指数が▲47.7 といずれもマイナスとなっている。山形との比較では消費指数が山形よりも4.6ポイント高い。景気判断指数が山形よりも3.4ポイント低い一方で、暮らし向き判断指数では8.0ポイント高くなっている。
- **今後の見通し**は、▲107.0(前期比 3.4ポイント下落)とやや悪化し、山形の見通し(▲106.7)とほぼ同水準の見込みとなっている。
- **家計簿調査**は、収入面では可処分所得(収入の手取り額)が472千円、支出面では407千円となった。山形と比較すると、秋田の方が山形よりも世帯の勤労収入で6千円、その他収入で20千円低く、家計支出でも秋田の方が山形よりも27千円低く、収入・支出の両面で山形よりも金額が低くなっている。なお、平均消費性向は86.2%で、山形(87.1%)とほぼ同水準である。

平成23年12月

株式会社フィデア総合研究所

目次

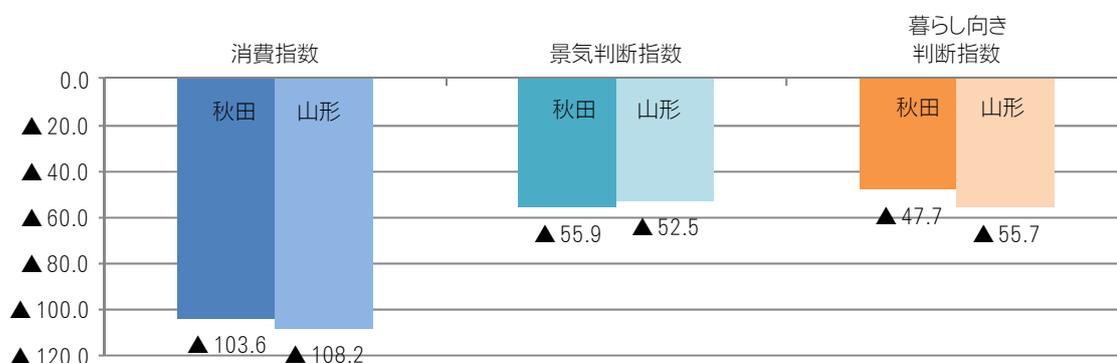
I. 消費指数	2
II. 消費指数(内訳)	3
1. 景気判断.....	3
(1) 景気判断の概況.....	3
(2) 景気判断の比較.....	4
2. 暮らし向き判断.....	5
(1) 暮らし向き判断の概況.....	5
(2) 暮らし向き判断の比較.....	6
III. 支出意向.....	7
(1) 支出意向の比較.....	7
(2) 支出意向(大きな買い物)の比較.....	9
IV. 家計簿調査.....	10
V. 調査の概要.....	12

I. 消費指数

消費指数は▲103.6 とマイナス超となっている。内訳をみると景気判断指数が▲55.9、暮らし向き判断指数が▲47.7 といずれもマイナスとなっている。山形との比較では消費指数が山形よりも 4.6 ポイント高い。景気判断指数が山形よりも 3.4 ポイント低い一方で、暮らし向き判断指数では 8.0 ポイント高くなっている。

なお、今後の見通しについては、▲107.0(前期比 3.4 ポイント下落)とやや悪化する見込みであり、山形の見通し(▲106.7)とほぼ同水準の見込みとなっている。

図表 1 消費指数の比較



調査時期	消費指数		景気判断		暮らし向き判断	
	秋田	山形	秋田	山形	秋田	山形
H23.09	▲103.6	▲108.2	▲55.9	▲52.5	▲47.7	▲55.7
見通し	▲107.0	▲106.7	▲53.7	▲49.0	▲53.3	▲57.7
(変化幅)	(▲3.4)	(1.5)	(2.2)	(3.5)	(▲5.6)	(▲2.0)

※本調査は初回につき山形県家計消費動向調査との比較分析とする

【指数の見方】

消費指数は景気判断指数(景気・雇用環境・物価の3項目で構成)と暮らし向き指数(世帯収入・保有資産・お金の使い方・暮らしのゆとりの4項目で構成)の合計からなり、値は200～▲200の範囲をとります。指数がプラスであれば家計の消費マインドは高揚していると判断します。一方、指数がマイナスであれば、消費マインドは低迷していると判断します。

II. 消費指数(内訳)

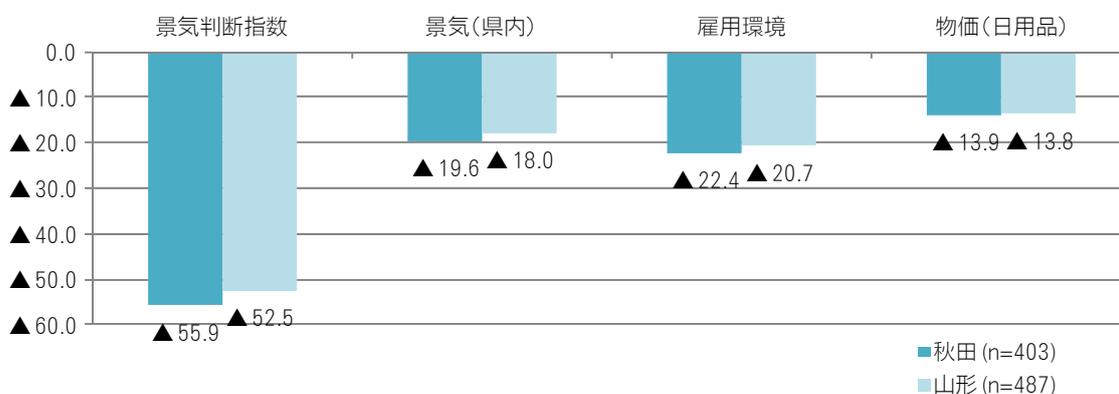
1. 景気判断

(1) 景気判断の概況

景気判断指数は▲55.9 とマイナス超となっている。個別指数をみると「景気(県内)」が▲19.6、「雇用環境」が▲22.4、「物価(日用品)」が▲13.9 といずれもマイナスとなっている。山形との比較では景気判断指数が山形よりも 3.4 ポイント低い。

なお、今後の見通しについては、▲53.7と 2.2 ポイント回復する見込みとなっている。

図表 2 景気判断指数(内訳)の比較



調査時期	景気判断指数		景気(県内)		雇用環境		物価(日用品)	
	秋田	山形	秋田	山形	秋田	山形	秋田	山形
H23.09	▲55.9	▲52.5	▲19.6	▲18.0	▲22.4	▲20.7	▲13.9	▲13.8
見通し	▲53.7	▲49.0	▲18.1	▲15.7	▲19.4	▲18.1	▲16.2	▲15.2
(変化幅)	(2.2)	(3.5)	(1.5)	(2.3)	(3.0)	(2.6)	(▲2.3)	(▲1.4)

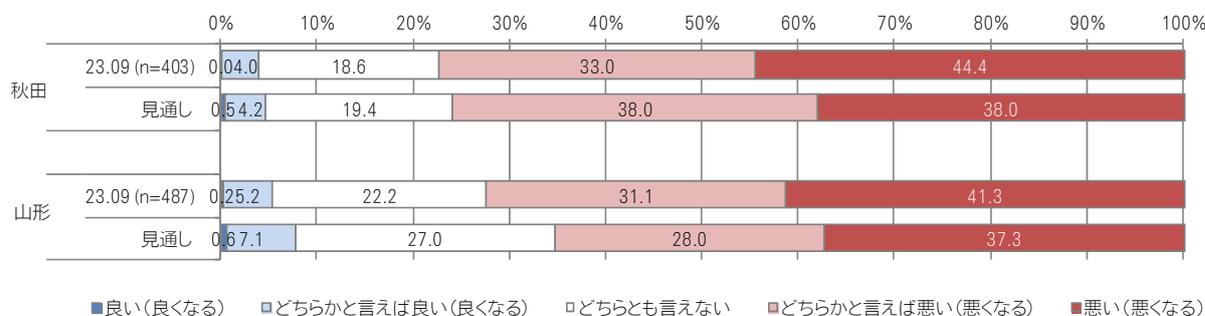
【指数の見方】

景気判断指数は景気(県内)、雇用環境、物価(日用品)の3項目の合計からなり、値は 100~▲100 の範囲をとります。指数がプラスであれば県内景気は高揚していると判断します。一方、指数がマイナスであれば低迷していると判断します。

(2) 景気判断の比較

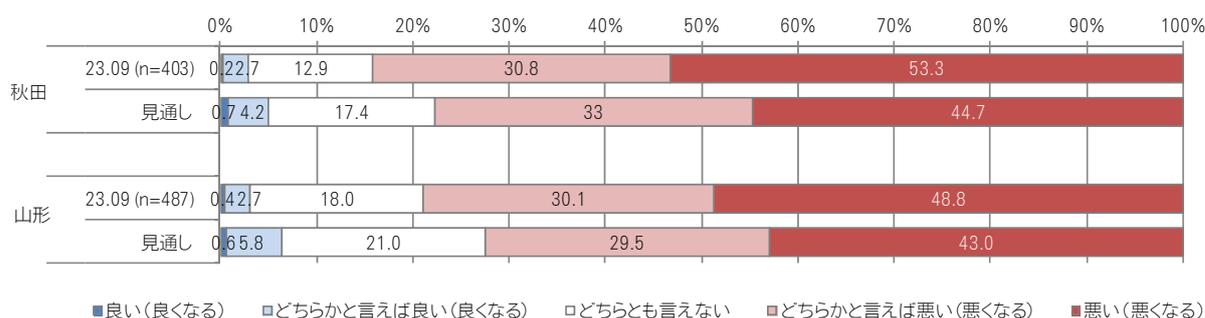
① 景気(県内)

図表3 「景気(県内)」の比較



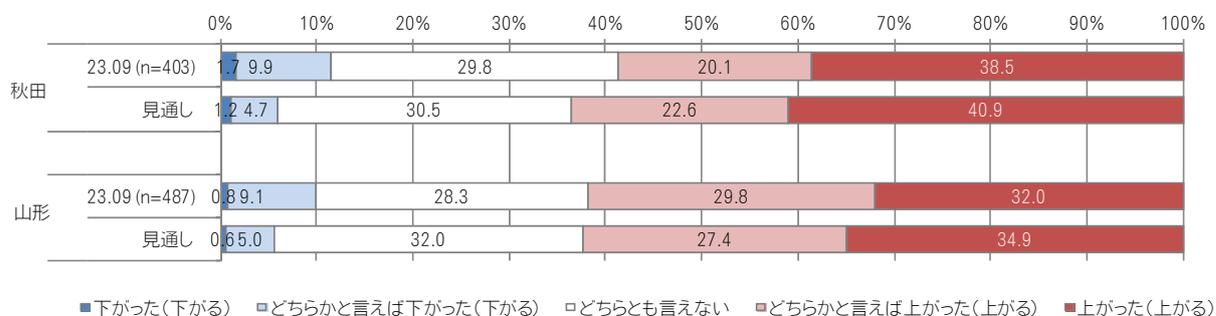
② 雇用環境

図表4 「雇用環境」の比較



③ 物価(日用品)

図表5 「物価(日用品)」の比較



2. 暮らし向き判断

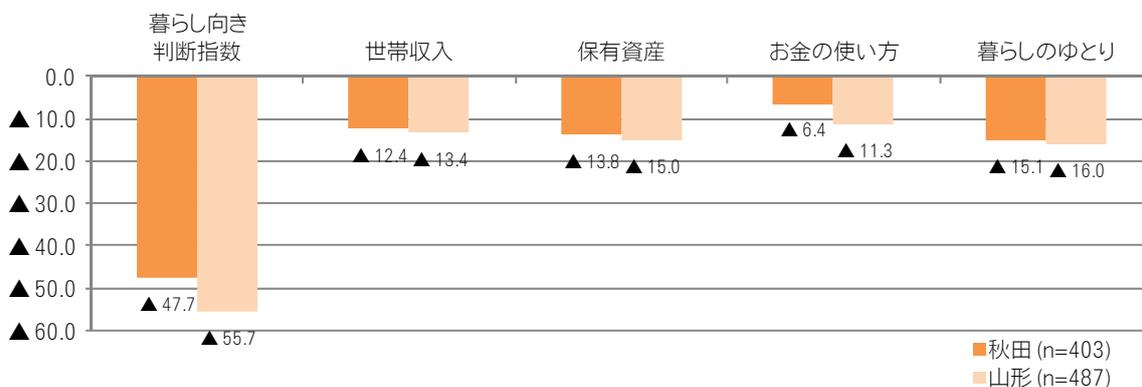
(1) 暮らし向き判断の概況

暮らし向き判断指数は▲47.7とマイナス超となっている。個別指数をみると「世帯収入」が▲12.4、「保有資産」が▲13.8、「お金の使い方」が▲6.4、「暮らしのゆとり」が▲15.1といずれもマイナスとなっている。

山形との比較では暮らし向き判断指数は山形よりも8.0ポイント高い。中でも「お金の使い方」が4.9ポイント高く、他の3項目も小幅ながら秋田の方が高いなど、暮らし向きについては山形の方が総じてシビアな見方をしている。

なお、今後の見通しについては、▲53.3と5.6ポイント悪化する見込みとなっている。

図表6 暮らし向き判断指数(内訳)の比較



調査時期	暮らし向き判断指数		世帯収入		保有資産		お金の使い方		暮らしのゆとり	
	秋田	山形	秋田	山形	秋田	山形	秋田	山形	秋田	山形
H23.09	▲47.7	▲55.7	▲12.4	▲13.4	▲13.8	▲15.0	▲6.4	▲11.3	▲15.1	▲16.0
見通し	▲53.3	▲57.7	▲13.3	▲14.1	▲14.1	▲14.8	▲10.8	▲13.3	▲15.1	▲15.5
(変化幅)	(▲5.6)	(▲2.0)	(▲0.9)	(▲0.7)	(▲0.3)	(0.2)	(▲4.4)	(▲2.0)	(0.0)	(0.5)

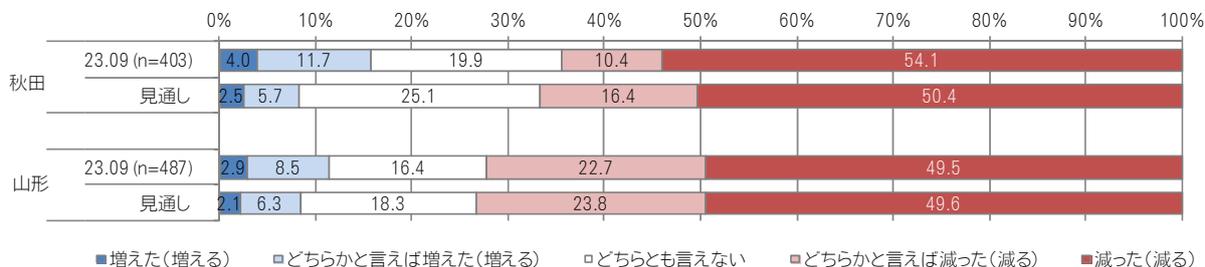
【指数の見方】

暮らし向き指数は世帯収入、保有資産、お金の使い方、暮らしのゆとりの4項目の合計からなり、値は100～▲100の範囲をとります。指数がプラスであれば暮らし向きは高揚していると判断します。一方、指数がマイナスであれば低迷していると判断します。

(2) 暮らし向き判断の比較

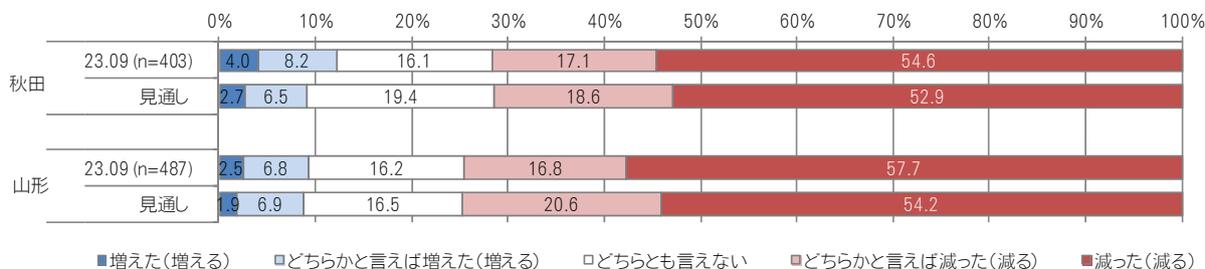
① 世帯(勤労)収入

図表7 「世帯(勤労)収入」の比較



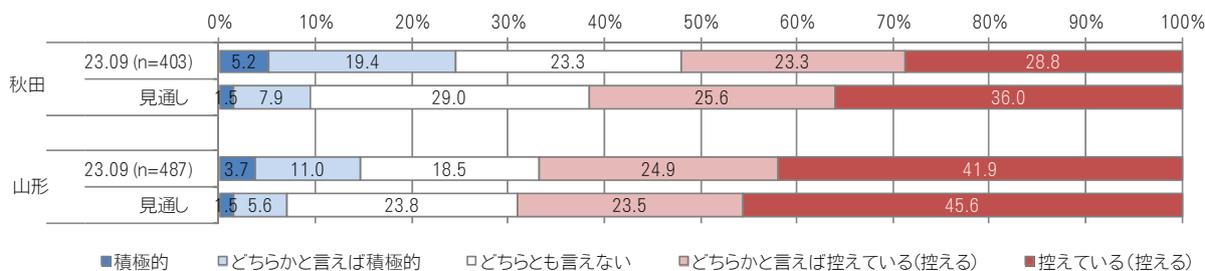
② 保有資産

図表8 「保有資産」の比較



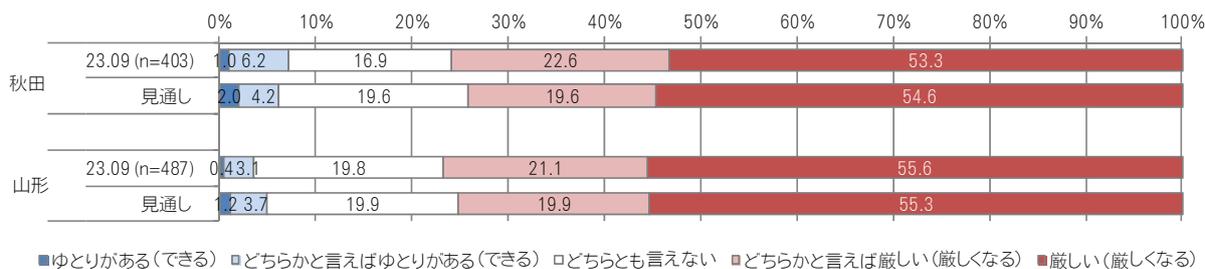
③ お金の使い方

図表9 「お金の使い方」の比較



④ 暮らしのゆとり

図表10 「暮らしのゆとり」の比較

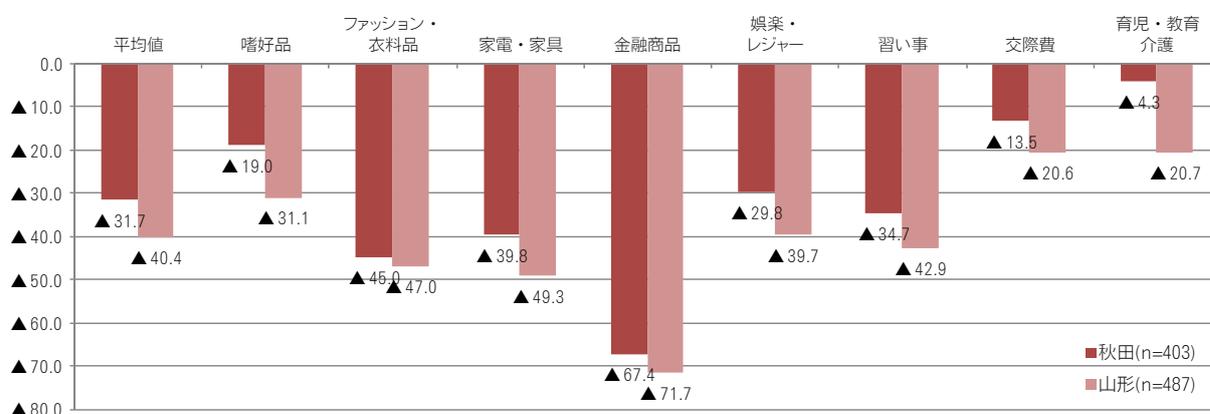


III. 支出意向

(1) 支出意向の比較

支出意向D Iの平均値は▲31.7とマイナス超となっている。個別D Iをみると、「育児・教育・介護」が▲4.3と最も支出意向が高く、「金融商品」が▲67.4と最も低い。山形と比較すると、すべての項目において秋田が山形よりD I値が上回っている。特に「嗜好品」、「育児・教育・介護」で差が大きく、両県の支出意向の違いが現れる結果となった。

図表 11 支出意向D Iの比較



	支出意向D I								
	平均値	嗜好品	ファッション・衣料品	家電・家具	金融商品	娯楽・レジャー	習い事	交際費	育児・教育・介護
秋田(n=403)	▲31.7	▲19.0	▲45.0	▲39.8	▲67.4	▲29.8	▲34.7	▲13.5	▲4.3
山形(n=487)	▲40.4	▲31.1	▲47.0	▲49.3	▲71.7	▲39.7	▲42.9	▲20.6	▲20.7
(対山形)	(8.7)	(12.1)	(2.0)	(9.6)	(4.3)	(9.9)	(8.1)	(7.1)	(16.4)

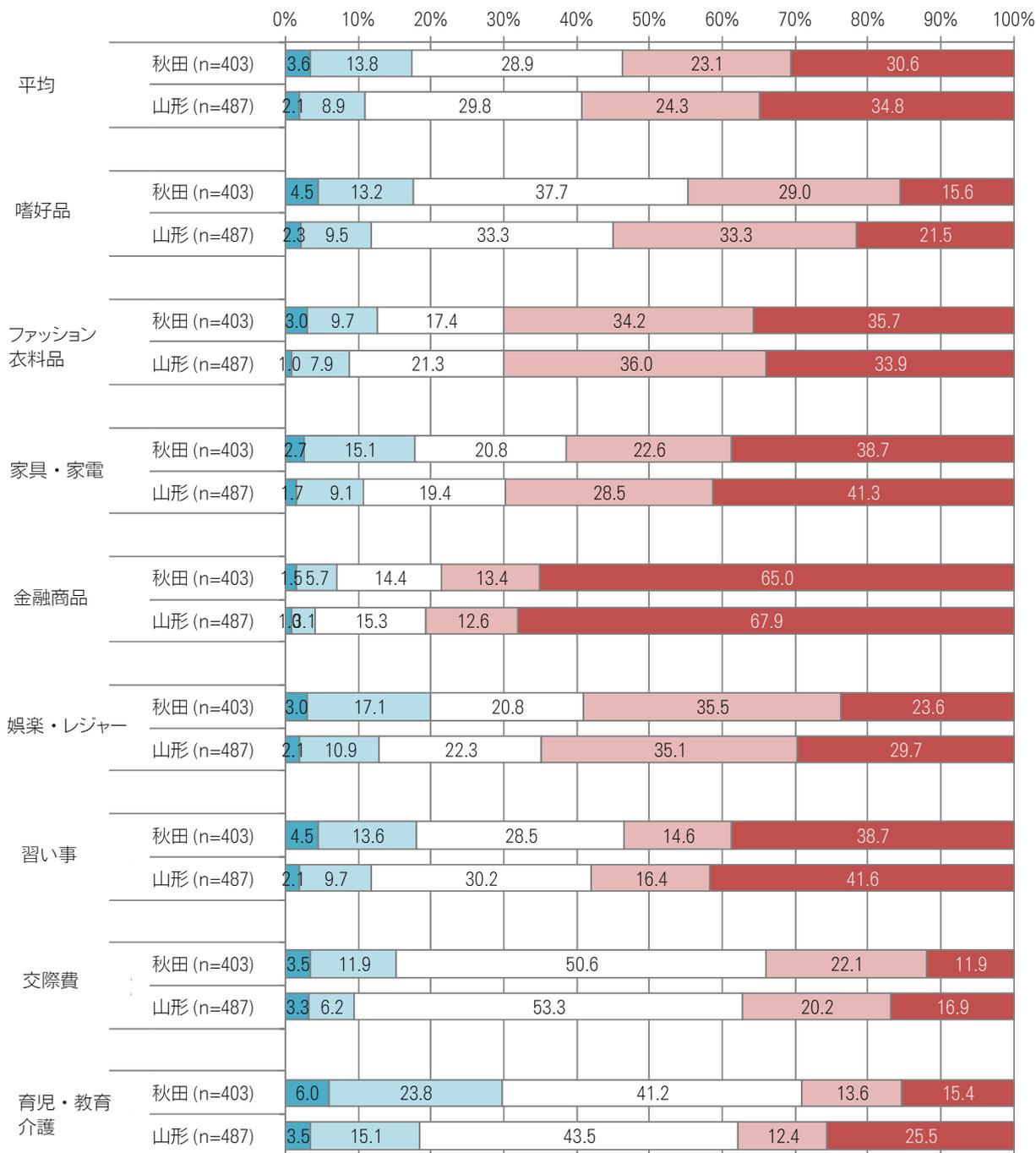
【D I値の見方】

各項目とも、現状判断についてそれぞれD I値を算出する。D I値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、算出方法は次の通り。

例) 嗜好品D I値

$$= (「1. 意欲的である」と回答した世帯の割合 \times 1.0 + 「2. どちらかと言えば意欲的である」と回答した世帯の割合 \times 0.5) - (「3. どちらかと言えば控える」と回答した世帯の割合 \times 0.5 + 「4. 控えている」と回答した世帯の割合 \times 1.0)$$

図表 12 支出意向の比較

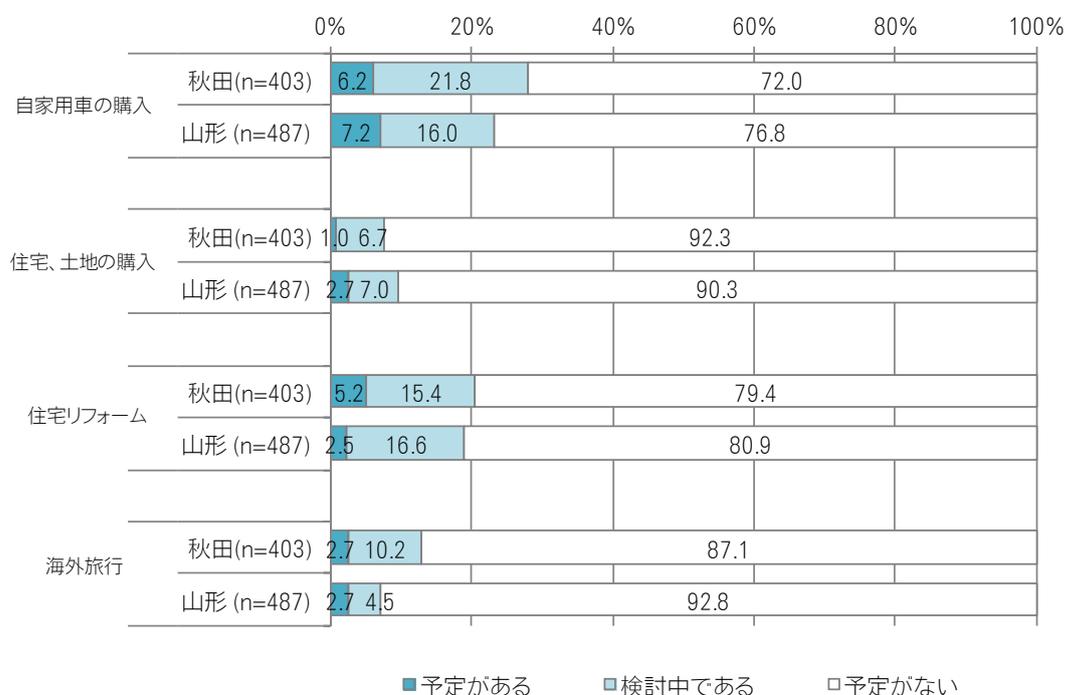


■意欲的 □どちらかと言えば意欲的 □どちらとも言えない ■どちらかと言えば控えている(控える) ■控えている(控える)

(2) 支出意向(大きな買い物)の比較

大きな買い物の支出意向(予定がある+検討中である)を見ると、「自家用車の購入」、「海外旅行」の項目で秋田が山形を上回っており、「住宅、土地の購入+住宅リフォーム」ではほぼ同水準となっている。総じて大きな買い物への支出意向も秋田の方が山形より高い結果となっている。

図表 13 支出意向(大きな買い物)の比較



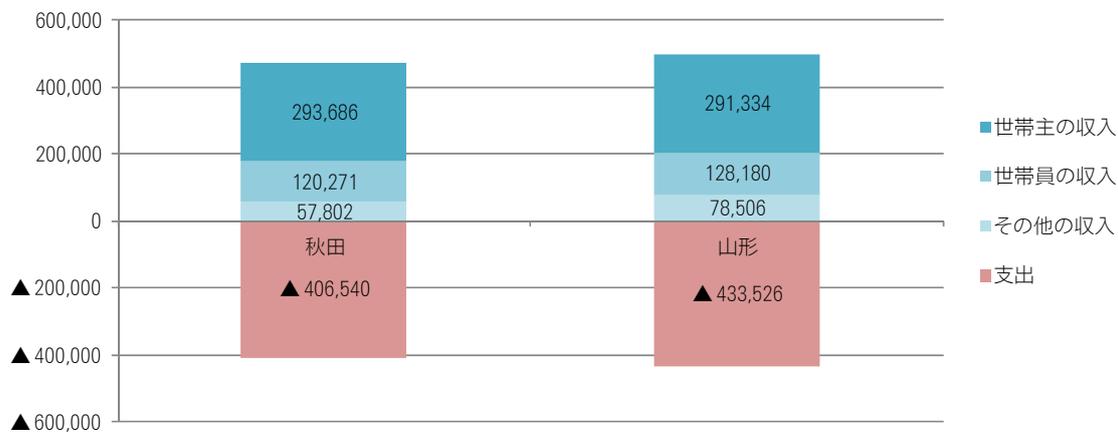
IV. 家計簿調査

図表 14 家計簿の比較

調査項目		調査年月		(単位:円) 対山形
		山形 n=438	秋田 n=363	
給 与	世帯主の定例給与《支給額》	324,801	315,631	▲9,170
	世帯主の臨時給与《支給額》	46,297	61,437	15,140
	A. 世帯主の給与《支給額》	371,097	377,067	5,970
	世帯員の定例給与《支給額》	134,529	121,538	▲12,991
	世帯員の臨時給与《支給額》	18,772	24,668	5,896
	B. 世帯員の給与《支給額》	153,301	146,206	▲7,095
世帯収入合計《支給額》(A+B)		524,398	523,273	▲1,125
収 入	世帯主の定例給与《手取り額》	254,415	242,586	▲11,829
	世帯主の臨時給与《手取り額》	36,919	51,100	14,181
	C. 世帯主の勤労収入合計《手取り額》	291,334	293,686	2,352
	世帯員の定例給与《手取り額》	113,699	98,559	▲15,140
	世帯員の臨時給与《手取り額》	14,482	21,713	7,231
D. 世帯員の勤労収入合計《手取り額》	128,180	120,271	▲7,909	
世帯勤労収入合計《手取り額》(C+D)		419,514	413,957	▲5,557
入 (手取り額)	1. 公的年金給付(老齢、障害、遺族年金)	33,184	23,978	▲9,206
	2. 保険給付金(医療、介護、失業保険)	1,780	2,103	322
	3. 各種手当(児童手当、こども手当)	3,887	5,309	1,422
	4. 利息、株式配当、投信分配金	2,679	3,395	717
	5. 事業収入(個人事業、農林水産業など)	4,334	2,609	▲1,724
	6. 不動産収入(駐車場、アパート家賃など)	3,929	2,889	▲1,040
	7. 有価証券売却・解約金(株、投資信託など)	1,212	165	▲1,047
	8. 不動産売却(土地、住宅、マンションなど)	0	0	0
	9. 中古品売却(リサイクルショップなど)	379	112	▲267
	10. 保険満期返戻金	6,895	7,839	944
	11. 保険一時金(生命保険、損害保険など)	6,590	716	▲5,874
	12. 相続、贈与、退職金	0	0	0
	13. 祝金、謝礼金、香典など	2,756	3,163	407
	14. 身内からの仕送り	6,495	1,676	▲4,820
	15. 借入れ(カードローン、キャッシング)	3,444	1,179	▲2,265
	16. その他	943	2,669	1,726
E. その他収入(控除後)		78,506	57,802	▲20,704
I. 収入計(C+D+E)		498,020	471,759	▲26,261
支 出	1. 食費(飲食会費は含まない)	56,318	56,163	▲155
	2. 住居費(家賃、駐車場、修繕)	19,162	17,673	▲1,489
	3. 水道・光熱費(電気、ガス、上下水道、灯油など)	23,415	20,739	▲2,676
	4. 生活用品(生活雑貨、家事消耗品など)	11,722	9,894	▲1,829
	5. 被服・装飾費(衣服、アクセサリ等)	10,209	9,046	▲1,163
	6. 医療・介護・理美容(通院、医薬品など)	15,608	10,922	▲4,687
	7. 交通費1(バス、鉄道、飛行機、高速道路料金など)	5,159	3,505	▲1,655
	8. 交通費2(ガソリン代)	18,587	17,513	▲1,074
	9. 自動車関連費用(車検、メンテナンス、タイヤなど)	11,665	15,849	4,184
	10. 通信費(電話、新聞、受信料、プロバイダー料金など)	19,790	18,732	▲1,058
	11. 教育費(授業料、教材費、学習塾、部活費用など)	20,180	12,070	▲8,110
	12. 育児費(子ども用品、保育園、幼稚園など)	7,685	6,270	▲1,415
	13. 交際費(飲食会費、贈答品、冠婚葬祭費など)	17,271	20,197	2,925
	14. 娯楽、趣味(旅行、レジャー、映画鑑賞など)	18,066	13,116	▲4,951
	15. 習い事(英会話、料理教室、スポーツクラブなど)	2,412	2,554	143
	16. 高額商品(パソコン、家電、家具、インテリアなど)	13,116	16,571	3,456
	17. 金融商品1(株、国債、外貨、金など)	697	12,036	11,339
	18. 金融商品2(投資信託、変額・定期年金保険)	6,169	3,061	▲3,108
	19. 借入返済1(住宅ローン)	42,990	29,736	▲13,254
	20. 借入返済2(自動車、学費、カードローン)	15,013	15,517	503
	21. 税金、各種保険料支払い(給与天引き以外)	41,560	43,925	2,365
	22. 身内への仕送り(学生など)	10,831	9,377	▲1,454
	23. 小遣い、その他	45,901	42,077	▲3,824
II. 支出計		433,526	406,540	▲26,986
平均消費性向(支出計÷収入計×100)		87.1%	86.2%	▲0.9%
平均貯蓄性向(1-平均消費性向)		12.9%	13.8%	0.9%

※ 世帯収入《支給額》は359世帯平均。世帯収入・支出《手取り額》は363世帯平均。

図表 15 収支の比較



家計簿調査によれば、収入面では可処分所得(収入の手取り額)が472千円、支出面では407千円となった。山形と比較すると、秋田の方が山形よりも世帯の勤労収入で6千円、その他収入で20千円低く、家計支出では秋田の方が山形よりも27千円低く、収入・支出の両面で山形よりも総額が小さい結果となった。

その結果、平均消費性向(家計支出/可処分所得)は86.2%となっており、山形より0.9ポイント低い。

V. 調査の概要

1. 調査の目的

秋田県民の暮らし向きや今後の見通しについて時系列的に捉えるとともに、具体的な商品やサービスに対する支出動向を把握することにより、景気判断等の基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査の内容

- ◆ 専属モニターを利用したアンケート調査
- ◆ モニター世帯数：467 世帯 有効回答数：403 回答率：86.3%

3. モニター属性



4. 調査の対象者

- ・秋田県内に在住する勤労者(サラリーマン)世帯(世帯人数2人以上の世帯)

5. 調査期間

- ・平成23年9月1日～20日

6. 地域区分

地域名	対象となる市町村名
県北	大館市、能代市、北秋田市、鹿角市、三種町、八峰町、小坂町、藤里町、上小阿仁村
中央	秋田市、由利本荘市、潟上市、男鹿市、にかほ市、五城目町、八郎潟町、井川町、大瀧村
県南	横手市、大仙市、湯沢市、仙北市、美郷町、羽後町、東成瀬村

<お問い合わせ先>

株式会社フィデア総合研究所 研究開発グループ 熊本均/後藤正彦/梅木倫行

山形本社

〒990-0043 山形県山形市本町 1-4-21 荘銀山形ビル 8F
TEL : 023-626-9017 Fax : 023-626-9038 E-mail : kenkyuu@f-ric.co.jp URL : http://www.f-ric.co.jp

秋田本部

〒010-0001 秋田県秋田市中通 3-1-41 北都銀行本店 8F
TEL : 018-837-1727 Fax : 023-834-5508